谷戸は小さな宇宙そして桃源郷

# カワセミだより

『奈良川源流域を守る会』

Since 1996.3

2008年10月31日発行

第11号

会長／山田健一　http://nara.yato.jp/　e-mail:nara@yato.jp

# 環境省の里地里山の調査地として、奈良川源流域が選ばれました。

## 動き出した環境省の里山保全対策。

環境省は、平成十四年三月、生物多様性保全の基本的な考え方や計画を示した新・生物多様性国家戦略を策定しました。このなかで、今後5年間の計画期間に着手・推進すべき7つの提案（絶滅の防止、自然の再生、移入種対策など）を示しています。

そのひとつに、より質の高い自然環境データを継続的に収集・蓄積する「モニタリングサイト1000（重要生態系監視地域モニタリング推進事業）」があります。

これは、長期にわたる継続的なモニタリングで得られたデータを分析することにより、生物種の減少など、自然環境の移り変わりをいち早く捉え、迅速かつ適切な保全対策につなげることを目指しています。

## 調査した情報は、環境省のホームページで公開。

モニタリングによって収集された情報と解析結果は、環境省のホームページ等を通じて広く公開されます。

これにより、国はもちろん、自治体、NPO団体、研究者、学校などで、幅広く活用されることが期待されています。

モニタリングサイト1000の一環として実施される里地調査は、全国の里地里山の生態系の変化を定量的かつ長期的にモニタリングし、その異変をいち早く捉え、保全施策に資することを目的としています。

環境省では、（財）日本自然保護協会を全国の調査団体のコーディネート団体とし、平成十六年度から調査項目や手法の検討、調査マニュアルの整備、調査サイトの設置、試行調査の実施を進めてきましたが、いよいよ全国的な調査が始まりました。

## 調査団体として正式に登録され、調査を開始。

環境省が実施する自然環境の迅速かつ適切な保全対策につなげるモニタリングサイト1000には、生態系の変化を総合的に把握するためのコアサイトと、全国に設置し、市民が調査項目を選んで調査を実施することにより、全国的な生態系の変化の傾向を把握することを目的とする一般サイトがあります。

二次林、農地、水路、ため池、草地等の里地里山としてのサイトの自然環境特性等を基準として、専門家の意見を聞きながら選考が行なわれ、ここ奈良川源流域は、正式に里地調査の一般サイトとして登録されました。

奈良川源流域を守る会では、調査団体として、今年から全国一律のマニュアルに基づいて、鳥類、植物、ホタルなどの調査を始め、今後五年間は継続して調査を実施します。調査の時には、担当者が環境省交付の腕章をつけて調査をしていますので、ご協力をお願いします。（写真は、環境省発行のモニタリングサイト100のパンフレット）

## 環境省の調査にご協力を

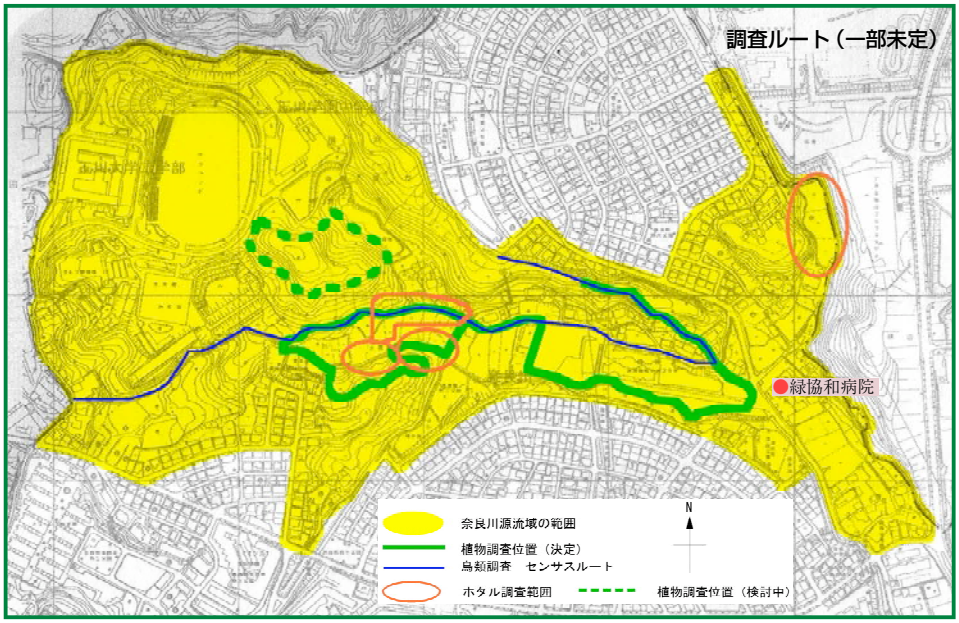
今年から始まった環境省の里地調査（一ページ参照）で、当会が実施する調査の内容は、鳥類、植物、ホタルの三部門です。すでにそれぞれの調査を担当する会員が、調査開始にあたり講習を受けてきました。当会では発足以来、十年以上観察会や鳥類センサスなどの調査を続けてきていますが、全国統一の基準のもとに調査するのは今回が初めてです。

猛禽類の多いことが奈良川源流域の生態系の豊かさを証明していますが、溜め池の水質悪化でゼニタナゴが絶滅寸前になったり、谷戸の開発でヘイケボタルが減少したり、市街化調整区域内の田んぼや山林に公共施設の建設が相次いで、里山の環境は年々悪化しています。

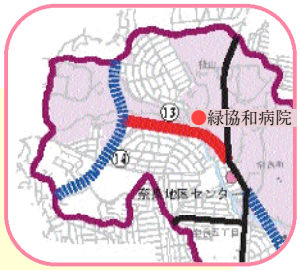
次の世代を担う地域のこどもたちに、ほんとうに大切なものは何か。私たちが開催してきた自然観察会で見せるこどもたちの好奇心に満ちたきらきらした目を見ると、自然と触れあい、自然のなかで遊ぶことが、いかに大事なことか、そして、それがいずれこどもたちが生きていくうえで大きな力になるだろうことを実感します。

今回の調査は、こどもや孫の世代に里地里山の貴重な自然環境を残していくための基礎調査です。すでに貴重なデータが記録されつつあります。

現在、玉川大学の学生さんたちも参加して、合同調査をしていますが、源流域の生き物に興味のある方は、ぜひご参加ください。




## 谷戸を縦断する都市計画道路・奈良1号線が廃止されます。




私たちが長年、横浜市に要望していた、こどもたちのための休耕田（市有地）の暫定利用や、奈良川源流部分の復元などのネックとなっていた都市計画道路が見直されることになりました。奈良川源流域には、はらっぱ広場のある谷戸を縦断する奈良1号線（⑬）と土橋谷戸を横断する柿生町田線（⑭）の二本の都市計画道路が計画されていましたが、そのうちの奈良1号線が廃止候補になりました。これは今年の奈良上自治会総会に出席した道路局からも説明があり、また他の説明会でも、廃止候補になった道路は変更しないものと考えている、と説明していますので、事実上決定したことになります。

これまで長期にわたり市民の意見を何度も聞きながら決定された見直し案ですが、平成二十年五月二十一日の記者発表資料での道路局の説明は以下のとおりです。

**●奈良1号線**については、計画地周辺が「横浜市水と緑の基本計画」の中で、緑の七大拠点に位置付けられていること、「青葉区まちづくり指針」における、「水と緑の軸」に位置付けられている奈良川と周辺の緑地に道路計画されていること、また、奈良北団地内の現道のバス通りが交通機能を代替できるため、「廃止候補」とします。

**●柿生町田線**については、「存続」路線としていますが、計画地の一部が、「横浜市水と緑の基本計画」の中で、緑の七大拠点に位置付けられていること、「青葉区まちづくり指針」における、「水と緑の軸」に位置付けられている奈良川と周辺の緑地に道路計画されていることから、廃止または線形変更することが望ましいと考えており、今後も川崎市、町田市と継続的に協議を進めます。

これは、「横浜市都市計画マスタープラン青葉区プラン・青葉区まちづくり指針」にある「横浜市の緑の七大拠点のひとつとして青葉区の北西部を中心にまとまって残っている樹林地については緑地保全地区、市民の森などの様々な緑地保全施策を活用し地域の意向を踏まえつつ保全を図ります」を踏まえたもので、これによって、貴重な里山の自然を生かした地域のまちづくりがスタート地点に立ったといえます。二十一年度から始まる予定の、私有地の買い取りも視野に入れた「横浜みどり税」が、その期待されている役割を果たせるよう見守っていきたいと思います。

# 谷戸の畑で野菜づくりが始まりました

里山祭りの会場としている土橋谷戸の周辺には田んぼや畑が点在しており、地元農家の方々が大切に耕作されています。

今年縁あって、社会福祉法人グリーンが永年耕作してきた畑を手伝うことになりました。

グリーンの畑はもともとは田んぼだったそうです。そのため土が重く、また谷戸の奥にあるため日あたりもいまひとつです。畑の中には、水はけをよくするために何本か水路が造られています。

しかし、四方を囲む谷戸の風情はすばらしく、立っているだけで気分がよくなります。

グリーンによれば、源流が染み出しているおかげで夏場でも水が途切れることがなく「ねっとりとしたよい里芋ができるよ」とのこと。

よし、今年はみんなで里芋を作って、秋は芋煮会で盛り上がるぞー。ということで、わたしたちは、みんなで畑作を始めることにしました。

それでは、今までの作業の様子、今後の予定などを報告いたします。

だいじょうぶかな？　と、みんなで注目

## 四月

グリーンの石田さんと当会会長が共同作業について話し合う。十三日、現地下見。グリーンの石田さんと会員が顔合わせをして、畑について説明をしていただく。二十二日、草刈、水路整備。会の初めての畑作共同作業。

## 五月

五日、畑の耕耘、マルチ張り。グリーンに耕耘機、管理機を貸していただき、また、指導もしていただきました。里芋二八〇個ほどを植付け。この他、大豆、かぼちゃを作付けすることを決定。大豆二四株を植付け。大豆（枝豆）は何回かに分けて植付けすることにしました。

## 六月

一日、かぼちゃ苗一三株を植付け。七日、大豆の種蒔き。ポットを使い百株強を種まき。ハト除けの覆いをしてポットは畑で育成することにしました。十五日、大豆二一株を植付け。二十二日、大豆百株を植付け予定。草刈、水路整備のための共同作業実施。

以下は予定です。

七月―八月　大豆（枝豆）の収穫
八月―九月　かぼちゃの収穫
九月―十月　里芋の収穫
十月　芋煮会、収穫物を里山まつりに出品
十一月　大豆味噌の仕込み

## 期待がふくらむ畑作り

一方、きちんと水路整備をすれば、畑奥から染み出す源流の泉に、ゼニタナゴやヘイケボタル、ゲンジボタルが戻せるのではないかという楽しみなアイデアも出てきています。

少しハードルの高いチャレンジになるかもしれませんが、これまでの経験を生かして、検討していく予定です。

現在の里山公園で、畑や椎茸栽培など、「農」を中心に作業をしていたグリーンとは、いつか交流する日が来ると思っていましたが、畑作りは、そのきっかけとなりました。（磯）

2008年★鳥類調査レポート

# 奈良川源流域で暮らす猛禽類たち

奈良川源流域では、過去の鳥類調査においてオオタカ、チョウゲンボウ等の猛禽類が確認されています。2008年の鳥類調査は、①ラインセンサスおよび②任意調査を実施しました。

ラインセンサスとは、ライン状の一定のコースを決め、そこで出現した全ての鳥類の個体数を記録する調査方法です。週1回程度実施しています。任意調査とは、調査範囲（奈良川源流域）内を任意の日時に調査しています。

オオタカの食痕

## 鳥類調査期間

2007年3月13日～2008年5月24日（以降も継続中）

## 鳥類調査結果概要

ラインセンサスでは、これまでに11目26科43種の鳥類を確認しています（＊）。年間を通して多いのはキジバト、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ハシブトガラスなどで、典型的な里山の傾向と言えます。特筆すべきはチョウゲンボウで、個体数は多くありませんが、調査地内に年間を通して生息し、繁殖も確認されています。また、一時的に利用すると考えられる種は、オオタカ、サシバ、コサメビタキ、オオヨシキリなどが挙げられます。

任意調査も含めると、猛禽類は、サシバ、ツミ、オオタカ、チョウゲンボウの4種が確認されています。特にそのうちの2種、チョウゲンボウとツミについては昨年に繁殖を確認し、「カワセミだより」10号で報告しました。オオタカ、ツミ、チョウゲンボウについては以下に報告いたします。

＊分類は「日本鳥類目録改訂第6版」（日本鳥学会、2000）による。コジュケイ、ドバト、ガビチョウは除く。

## オオタカ?の食痕確認

奈良川源流域では、時々オオタカ（学名：*Accipiter gentili*）が確認されています。日付が確実にわかるものとしては、昨年の猛禽類定点調査（2007年6月3日）、今年の畑作業時（2008年4月29日）などです。

今年、1月26日のラインセンサス時のことでした。調査中、カラス類に追われた、カラスと同大の猛禽類が足に何かをつかんで林内へ飛翔するのが見えました。おそらくオオタカと思われたので、センサスを中断してその場に行ってみると、キジバトの羽毛が転々と散らばっていました。しばらく周囲を探したものの、その時はそれ以上見つかりませんでした。

同日午後、開発中の建設現場に連なる尾根で食痕を確認しました。オオタカらしき猛禽類を見失った後、カラスがしばらく騒いでいた場所とも一致します。

ここで言う食痕とは、猛禽類が獲物を処理した痕跡のことで、羽毛がびっしりと落ちているのがわかります（写真参照）。獲物はキジバトで、ごく新しく、血もついていました。以上の状況より、おそらく朝のものと推定しました。朝、最初に確認した地点から約100mあまり、獲物をつかんで林内を飛翔したと思われます。

以上より、オオタカが、一時的にせよ奈良川源流域を餌場として利用していると推測されます。

## ツミの繁殖報告

### 一般生態

ツミ（学名：*Accipiter gularis*）は、ヒヨドリかそれより少し大きいくらいの小形のタカ類。北海道～西表島の平地や低山および亜高山の林で繁殖するが、西日本では少ない。春と秋に日本各地で渡りが見られるが、本州以西では越冬するものがある。近年、東京の郊外で繁殖するものがある。産卵数は通常3～5個。

ツミ　成鳥雌　2007.08.09

ツミ、雄　2008.05.11

## 営巣位置

町田市成瀬および横浜市青葉区の境界付近の林内（詳細は非公開）。

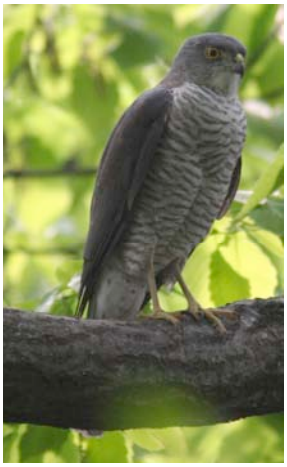
＊昨年は玉川学園構内、ヒマラヤスギの樹上でした。今年はその木が枝打ちされたので、戻って来たものの、その後移動したようです。なお、昨年繁殖した個体、昨年の営巣位置で今年確認した個体、今年の繁殖を確認した個体がそれぞれ同一かどうかは不明です。

## 繁殖経過

4月1日▽鳴き声を確認
4月29日以降▽産卵
5月22日現在▽おそらく抱卵中

## 観察結果抜粋

2月上旬▽昨年の営巣木が枝打ちされ、丸坊主の状態になっていました。



ツミ、雌　2008.04.28

2月17日▽昨年の営巣木近くに成鳥雄がとまっていました。

4月1日▽昨年の営巣木より500mほど離れた位置で鳴き声を確認しました。

4月3日▽雌雄の姿と交尾を確認しました。

4月10日▽交尾位置のすぐ横でタケノコ狩りが始まりました。期間は5月中旬までとのことで、繁殖への影響が心配されました。

4月11日▽林の管理者に配慮を申し入れました。結果、タケノコ狩りを禁止することはできないが、大声を出さない、大勢で立ち入らないなどの配慮を促す張り紙が掲示されました。

4月25日▽交尾位置近くでの鳴き声を最後に確認した日です。

4月27日▽交尾位置より150mほど東の地点で、ハシブトガラスに対して攻撃していました

飛翔するチョウゲンボウ

4月28日▽ハシブトガラスに攻撃した位置近くにて造巣行動を確認しました。

5月11日▽雌と思われる個体が巣の中で身じろぎしたのを確認しました。しばらく待っていると、雄が餌を持ってきました。餌はシジュウカラのようでした。

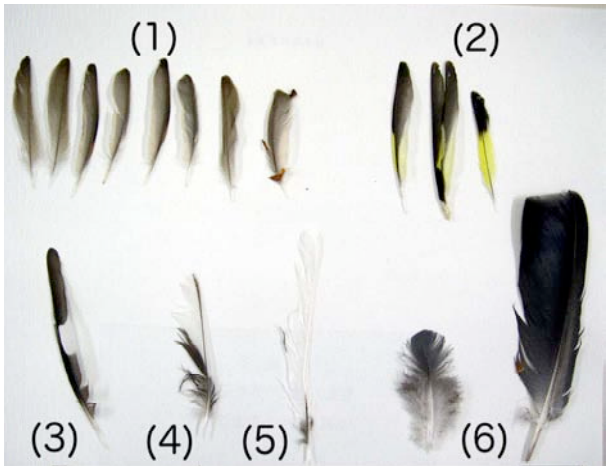
# チョウゲンボウの食痕確認

5月17日、バードウォッチングの終盤に玉川学園構内に入りました。その際に、チョウゲンボウ（学名：*falco tinnunculus*）の繁殖する記念体育館周辺にて、食痕を探しました。オオタカのようにまとまって落ちているものはありませんでしたが、よく探すといくつか、小鳥類の羽を見つけることができました。

①スズメ（8枚）／風切羽や尾羽です。
②カワラヒワ（4枚）／風切羽や尾羽です。
③シメ／右の翼の風切羽です。
④アオジ／最外の尾羽（左）です。
⑤ハクセキレイまたはセグロセキレイ／最外の尾羽（左）です。この2種のこの部分の羽毛はとても良く似ていて識別が困難でした。
⑥ドバト（2枚）／ドバトはチョウゲンボウの餌としては大きいので、食痕ではないかもしれません。


◆参考文献
森岡照明ほか、1995、図鑑日本のワシタカ類、文一総合出版
笹川昭雄、1995、日本の野鳥　羽根図鑑、世界文化社、1995
高田勝ほか、2004、原寸大写真図鑑　羽、文一総合出版
池田昌枝ほか、1991、南関東都市部におけるチョウゲンボウの繁殖状況と環境特性、strix10:149-159
平野敏明、1994、繁殖期におけるツミ *Accipiter gularis* の鳴き声活動と空中ディスプレイについて、Strix13:31-39
畑隆弘、2007、ツミ *Accipiter gularis* の繁殖期における日周行動について、Goshawk 5:27-35


（写真・文　小森谷）




チョウゲンボウの食痕

★奈良川源流域の植物たち★

# 里山公園周辺の四季折々の野草たち

渡辺　坦

奈良川源流域は、南側と北側に瀟洒な住宅街のある小高い丘が連なり、その間に田んぼや湿地、原っぱなどがあります。奈良川はその丘の麓を西から東へと流れています。源流には池もあり、ごく小さな川ですが日照りが続いても涸れたことはありません。南側の北向き斜面と北側の南向き斜面には木々が茂り、北向き斜面の一部に里山公園があります。

また、南向き斜面の麓を縁どるように花壇も作られており、花好きの人たちが毎週のように手入れをしています。この源流域では、様々な小鳥やキジ、サギなどの野鳥が飛び交い、春は花、夏は深い緑、秋は紅葉に彩られ、たくさんの野草が四季折々の花をつけます。ここを散策していると、都会地にわずかに残されたこの貴重な自然を大切にしたいと思うようになります。

原っぱにはクローバなどが咲き乱れます。

キブシ（キブシ科）が咲くともう春です（3 月）。

水田も美しいですね。市街地ではこういう風景は希になってきました（7 月）。

ウグイスカグラ（スイカズラ科）にはウグイスも来るでしょう（4 月）。

アケビ（アケビ科）のつるが伸びています（4 月）。

ジュウニヒトエ（シソ科）は半日日陰のようなところでも元気に咲いています（5 月）。

ベニバナトチノキ（トチノキ科）が里山公園に植えてあります（5 月）。

里山公園にはわき水もあり、そのそばにはミゾソバ（タデ科）が生えています（10 月）。

夏には湿地帯にヨシ（イネ科）が力強く茂り、オオヨシキリなどのすみかとなります（8 月）。

冬の寒さに耐えたケシ（ケシ科）が春の花壇を鮮烈に彩ります（5 月）。

【平成二十年五月十七日、午前八時から】

# 初夏のバードウオッチング

**講師：仲俣申喜男先生（音楽家・日本野鳥の会）、小森谷田紀先生**

参加人員：約十五名
フィールド：はらっぱ広場、土橋谷戸（たんぼ）、本山池、東山尾根道、玉川大学体育館、天候＝晴れ

◎今回は、探鳥の時間を少しでも確保するため、自治会館でのレクチャーはなく、仲俣先生が作成されたレジュメ「探鳥の手引き」を渡され、すぐフィールドに出ました。

仲俣先生「鳥の声はすれど姿は見えず、です。よく耳を澄ましましょう。鳥の鳴き声の音質、に心がけて探鳥を行いましょう」

## ――フィールドメモ

### ◎はらっぱ広場周辺

仲俣先生「ツバメが飛んでいます。田んぼの泥を食べています。キビィ、キビィと鳴いています。土喰って、虫喰って、渋ーい、と鳴いていると言いますね。そう、聞こえますか？」

アオサギ

小森谷先生「鉄塔の上から三段目にカラスの巣が見えますね」（写真参照）

ツミ

**Q**：なぜ、カラスが巣を作っているのが解ったのですか？

**A**：それは、カラスが鉄塔に出たり入ったりしているからです。

仲俣先生「今時分は、いろいろな鳥が巣を作っている時です。カラスはどこにでも巣を作ります。他の鳥はカラスが怖いので、人間の家のそばに巣を作ります。鳥は安全な場所に丹念に枝を選んで、きれいに巣作りをしています。ウグイスは笹藪の中に巣を作ります。先日、庭の植木の剪定をしていたら、鳥がやたらにピィー、ピィー鳴いていました。変だと思ってよく見たら、庭木に鳥の巣がありました。そうとは知らずに剪定をしていたのです。鳥は一度巣が見つかると、巣を放棄しますね」

**Q**：雨戸に巣を作られて、中に青い卵があったのですが、何の卵でしょうか？

**A**：ムクドリかシジュウカラでしょう。

**Q**：ホトトギスの鳴き声が三日前から聞こえるのですが。夜にも鳴いています。

**A**：五年程前まではこの辺を通過するだけだったのですが、いつでもいるようになりました。ホトトギスはウグイスの巣に卵を産み付けますから、ウグイスのいるところにはホトトギスはいます。玉川大学のキャンパスでは二つがい確認されています。八月頃まで鳴き声が聞こえますよ。

**Q**：あのカラスは何というカラスですか？

**A**：ハシブトガラスといいます。英名は「ジャングルクロー」です。元々は森にいたカラスですね。

**Q**：いま、「ピョー、ピョー」と甲高い鳴き声が聞こえましたが、あれはコジュケイですか？

**A**：「探鳥の手引き」にもあるように、あれはアオゲラです。いま、別に「ピーヤ、ピーヤ」と鳴き声が聞こえましたね。あれがコジュケイです。紛らわしいですね。それと今日は聞こえませんが「ギョシ、ギョシ」との鳴き声が聞こえたらそれはオオヨシキリです。オオヨシキリは毎年この芦の原にきます。「ギョシ、ギョシ」と鳴くので、俳句では「行行子」（ぎょうぎょうし）といって夏の季語になっています。

チョウゲンボウ
玉川大学の体育館の下で、チョウゲンボウのものと見られる食痕を採取

**Q**：コジュケイは飛びますか？

**A**：飛びますよ。

**Q**：なんか大きな鳥が空を舞っていますが……？

**A**：あれは、大きな鳥ですね。オオタカかハイタカでしょうか。どなたか写真を撮ってください。（写真参照：ツミのようです）

**◎土橋谷戸（たんぼ周辺）**……セグロセキレイ、カルガモ、キジバト、ムクドリ（写真参照）、アオサギ（写真参照）、チョウゲンボウ（写真参照）が確認されました。

**◎本山池**

仲俣先生「いま、池の向こうの畔（写真参照）にキィー、キィーという鳴き声がしました。カワセミの声です。一瞬ですがカワセミが姿を見せましたね。ティティテ、と鳴き声がしますね。これはシジュウカラです。チィチィチィと鳴いているのはメジロです。これは、仲間とコミュニケーションを取っているのです。ひとりでは鳴きません。ピーチョビチョビと鳴いているのはヒヨドリです。ひとり、静かに鳴いていますね」

**◎東山尾根道**……ガビチョウとチョウゲンボウが確認されました。

**◎玉川大学体育館前**……（5ページ参照）。

奈良上自治会館に戻り、散会しました。（鎮目）

## 1996 年度～ 2008 年度 公開イベントリスト

私たちは、この 12 年間、奈良川源流域の里山環境を守るため、周辺住民の方々にもそのすばらしさを実際見て、触れて、感じていただきたいと思い、日本野鳥の会をはじめとする自然保護団体の方々、大学の専門家の先生方をお招きし、様々なイベントを開催してきました。その活動の一端をご紹介いたします。

ボク、イタチ。この谷戸にいたいよー。

1996 年度■発会式／お花見会／バードウォッチング／座間谷戸山公園見学会／春の植物観察会／バードウォッチング／開成町ホタルの里見学会／田植え／昆虫観察会／ホタルの会／虫の声を聴く会／稲刈り、脱穀・もみすり／もちつき大会

1997 年度■バードウォッチング／冬の鳥バードウォッチング／植物観察とお花見の会／田おこし／谷戸・里山の保全について考える会／あぜ付けと田植え／ホタルの夕べ／昆虫観察会／虫の声を聴く会／稲刈り、脱穀、もみすり／収穫祭

★絶滅危惧種ゼニタナゴの生息地の復元で、WWF JAPAN の 1998 年度自然保護事業助成決定（以後３年間助成金を受け、神奈川県水産総合研究所、玉川大学との共同事業としてゼニタナゴの復元を図る。現在も継続中）

1998 年度■バードウォッチング／植物観察とお花見の会／バードウォッチング／開成町 ホタル観察会／田植え／田の草取り／ホタルの夕べ／昆虫観察会／ゼニタナゴの池掘り／稲刈り、脱穀／草笛の会／収穫祭

1999 年度■バードウォッチング／植物観察とお花見の会／昆虫観察会／ホタルの夕べ／虫の声を聴く会／収穫祭／竹の炭焼の準備

2000 年度■竹の炭焼／竹の炭焼（炭出し）／バードウォッチング／自然観察とお花見の会／草笛の会／ホタルの夕べ／虫の声を聴く会／収穫祭

2001 年度■節分　芋煮会／バードウォッチング／昆虫観察会／虫の声を聴く会／収穫祭

2002 年度■バードウォッチング／お花見の会／バードウォッチング／昆虫観察会／虫の声を聴く会／収穫祭

2003 年度■バードウォッチング／お花見の会／植物観察会／昆虫観察会／里山まつり／神奈川県教育委員会制作の学校教育放送番組「わくわくチャレンジ―自然たいけんにでかけよう」で紹介される（TVK で放映）／バードウォッチング

2004 年度■草笛と野遊びの会／昆虫観察会／里山まつり／学校教育放送番組再放映／本山池の調査／バードウォッチング

2005 年度■バードウォッチング／お花見の会／昆虫観察会／里山まつり／環境教育シンポジウム『奈良池の保全と環境教育』参加・講演／本山池北側のゼニタナゴ池づくりに協力／

2006 年度■バードウォッチング・お花見の会／昆虫観察会／里山まつり

2007 年度■お花見の会・里山吟行／バードウォッチング／昆虫観察会／里山まつり

2008 年度■お花見の会・里山吟行／バードウォッチング／昆虫観察会／土橋谷戸の畑で野菜作りを始める／環境省の「モニタリングサイト 1000（重要生態系監視地域モニタリング推進事業）」で、奈良川源流域が調査地域に認定され、当会が 4 月から調査を開始しました。

★定期的な活動として、毎月第１・第３土曜日に、畑の耕作、花壇の手入れ、里山公園のボランティア管理などを行っています。また、会員による鳥類調査（毎週土曜日）、昆虫調査、植物調査を行っています。2004 年から、里山公園周辺の定点撮影を始め、四季折々の里山の景観をホームページで公開しています。

★2005 年に、NHK が企画した、テレビの番組づくりを体験しながら、放送の仕組みを知ってもらう「NHK 放送体験クラブ」に、奈良小学校の５年生が参加し、自分たちの番組を作っています。生徒自身が、キャスターやレポーターになって構成、取材を行い、NHK 横浜放送局のスタジオで制作したものです。
５年生の 4 クラスのうち 2 クラスが、奈良川源流域を守る会の活動を紹介し、1 日遊んでも飽きないところ、この環境を守っていきたい、と奈良川源流域をレポートしています。当会では、これまで、奈良小学校の総合教育・環境教育に協力し、里山の案内なども行っています。

【平成二十年三月三十日】

## お花見会＋里山吟行

恒例になった年に一度の句会・お花見会は、皆さんさすがに心の準備も万端で、和やかにゆったりと時は過ぎていきました。酔うほどに、皆さんの顔が、芭蕉や蕪村に見えたりして、来年は、色紙に筆で、と気持ちはすでに俳諧師。今年も結社同人のOさん、ご指導ありがとうございました。

花の雲眺めつ酌みぬ「浦霞」　光
花の宴散りにし人に見守らる　健
姥桜に見とれてゐたり老桜（おい）　岸田
翡翠（かわせみ）の青き一閃池よぎる　博
濃く淡く心にしみる里桜　小松
里山のしづけさ破る雉子（きじ）の声　T・W
うかうかと花見に出づる長きもの　美
花満ちて我が人生は幕間期（まくあいき）　和子
桜さくら幼（おさ）なも老いもそわそわす　みづ
我が寄辺ここに有りけり里桜　幸子
農小屋の荒かべに穴花楓（はなかえで）　桜子

（以上旧仮名にて）

### 入会のご案内（入会随時）

▼会費／年間二千円（家族は無料）
▼会員の方には、会報『カワセミだより』をお送りします。また、定例会のお知らせをするほか、随時行事のご案内をいたします。
▼連絡先／『奈良川源流域を守る会』事務局
電話（ＦＡＸ兼用）〇四五―九六二―四五七六［山田］（e-mail:nara@yato.jp）
▼インターネット上の当会のホームページでは、活動の内容と、会報のバックナンバーがご覧になれます。（http://nara.yato.jp/）
＊緑山ハーブガーデン『ナチュラパス』でも随時入会の受付けをしています。
▼ご一緒に、谷戸で草花を育てたり、里山公園の手入れをしませんか。活動日のお問い合わせは、事務局までご連絡ください。

### ●編集後記

夜中に帰宅すると、ときどき道を歩いていたり、立ち止まってこちらを見ているタヌキに出会います。奈良川源流域では、そういう野生の気配が感じられます。このあいだ見かけたイタチはどうしているだろうか。キジをおそったオオタカは、どこかに巣をかけただろうか。ヘイケボタルは来年も出るだろうか。残土として処分された土壌生物はどうなってしまったのだろうか。みんなここで一緒に暮らしている仲間たちです。その仲間たちがいつの間にか消え、見かけなくなったとすれば、追いやったのは私たちです。

今年の里山公園の活動は、一部古くなった樹木の名札を付けかえたこと、枯れ木を伐採して玉切りしたこと、若木が成長したので支柱を外したこと、そして植物観察です。夏休みの里山公園での昆虫観察は恒例となりました。植樹するときに、公園課の人と相談して虫の集まる樹を多く植えてもらったので、そのうち昆虫王国になるかも知れません。花壇は四季折々の花が咲きそろい、散歩する方々からよく、きれい、と声をかけられます。奈良川源流域がこどもたちの自然のふるさとになることを願っています。（山田）